

<u>CLASSE:</u>	文学講読 プルーストを読む LePS-61
<u>Jour:</u>	土曜日
<u>Horaire:</u>	13:30-15:20
<u>Niveau:</u>	B1
<u>M./Mme:</u>	M. Satoshi FUKUYAMA
<u>Objectifs:</u>	フランス20世紀文学の最高峰に位置するプルーストの作品を、じっくり読み解いていきたいと思います。 作品の全体に配慮しながら、全部を読み上げることを目標にしています。
<u>Descriptif:</u>	『花咲く乙女たちのかげに』の第2部「土地の名 — 土地」を引き続き読んでいきます。ヴィルパリジ夫人との美しくも愉快的な散策も終わりをむかえました。ヴィルパリジ夫人の甥であるサン＝ルーとの出会いと交流へと場面はかわります。貴族的でありながら「わたし」との心からの交流が織りなされてゆきます。 できうる限り丁寧に文法の解説をしつつ読み進めます（進度としては一回につきプレイアード版で2頁弱くらいです）。事前にお当てしておいた生徒さんに訳していただきながら、みなさんとともにあれこれと考えていくスタイルをとっています（当てられたくない、聞いているだけでじゅうぶんという方にはお当てすることはありませんので安心してください）。プルーストの思想と文章を形作ったさまざまな歴史的な背景、文化的な要素を抽出していくことにも意を用いています。 こころざし高く『失われた時を求めて』にチャレンジしても、第1巻で挫折したというのは、もはやプルーストあるあるといってもよいでしょう。第2巻『花咲く乙女たちのかげに』の興味深い箇所にはさしかかったところです。新規に参加するにはちょうどよいかもしれません。この未知のゾーンをいっしょに体験してみませんか？これを機にぜひご参加を、お待ちしております。
<u>Matériel:</u>	Marcel Proust : <i>A la Recherche du temps perdu</i>, Gallimard, Pléiade (プリント配布)
<u>Remarques:</u>	